



# 香川県防災士会 会報



第 17 号 2014.4

(一般用)

菜の花が咲き、桜が咲き、チューリップが咲き・・・

自然って素晴らしいですね。

こんなきれいな季節を平和に過ごせることを感謝しつつ毎日を過ごしています。

でも、災害は季節・時間を問わず人々の生活に襲い掛かってきます。

日々の生活を楽しみつつ、災害時の備えをもう一度見直してみましょう。

いよいよ新年度のスタートです。

総会に向けての準備に追われていますが、今年度も楽しく活動していきましょう♪

♪今回は、報告(3件)です♪

### ＜平成 25 年度学校防災アドバイザー＞ 【久保 雅和】

平成 25 年度実践的防災教育総合支援事業全国成果発表会

平成 26 年 2 月 5 日アイビーホール青学会館で全国の学校防災関係者が参加して開催された。教育委員会からの依頼を受け、香川県からは教育委員会高木氏、香川大学危機管理センター岩原副センター長と私が出席したので概要を報告します。

基調講演では、神戸大学名誉教授・室崎益輝氏の「東日本大震災の教訓と今後の学校防災」と題し＜自然との共存、減災のための足し算＞＜地域と学校の足し算＞＜減災と学校…人間の足し算＞＜減災と学校…時間との足し算＞＜災害に強い人間を作る＞＜災害に強い管理に心掛ける＞＜緊急時のマネジメント＞を主体に学校防災について講演が行われた。室崎先生の講演は関西人だけあっていつも具体的な例が多く大変理解しやすかったのではないかと思います。

第 2 部の実践発表では指定された茨城県、徳島県、埼玉県、三重県、神戸市、静岡県の実践活動が報告された。発表事例では府県、市で代表校を決めたうえで実践活動の事例が発表された。実践活動では教職員の災害時のイメージトレーニングのチェックリストを作成し、地域との連携の有効性「学校防災を考える集い」の実施例や避難訓練の実施等が報告されたが、中でも教育委員会・教育現場と気象台との連携での成果の報告があり、今後は各市町に取り組みを広げて行くとの報告があった。また、緊急地震速報を活用した訓練の報告もあった。

感想として、香川県のように県内全体で実施している報告はなく、特定校の実践活動を府県全体に広げて行く方向性が見られた。また、これだけ全国的に防災教育を実践しているのに実感としては各府県、県内も含め大きな温度差があり、教育現場全体にはまだまだ広がっていない感じがした。

### ＜香西地区防災セミナー（全 8 回）を終えて＞ 【秋山 俊一】

経緯及び内容の報告を致します。

◎経緯

昨年の 6 月に香西のコミュニティセンターから相談が有るとの事で訪問すると、今回のセミナーを発想した明田主任とセンター長が待っており、センター長から「防災に関する勉強会をしたいので協力してほしい」旨の話があり、「いいですよ」と了承。すると明田主任から「一回ではなく、8 月から毎月一回の来年 3 月まで全 8 回で考えています」との要望。「えっ」とビックリするも、協力を OK と言った手前、心の中の動揺を隠し受けてしまう。

その日から、8 回の内容の企画立案を始め、実施するにあたり必要と考えて香川大学危機管理研究センター・日本赤十字社・香川県防災士会に協力要請を行ない、了承を得た上でコミセン側に案を提出してこのセミナーがスタートした。

記念すべき第 1 回は 8 月で夏休み期間でもあったので、親子中心にスタートし、その後も多くの人に解

り易く・身近に感じ・全ての回を参加型で構成し、地震・津波、防災・減災活動、救急救命、クロスロード、HUG・避難マップ作り・共助の大切さ、クロスロードノート、等を8回に分けて実施。それぞれ各月の内容に合わせて、大学の先生方5名・日赤の方3名・防災士会は会長他10名が携わって頂いて実施した。

地域住民の方に関しては、開始するに当たりコミセン側に提案・協議し、全ての回に対し各自治会に対して動員は一切掛けず、回覧板での案内、口コミのみで全て自由意思に委ねて実施することになった。

(かなりの冒険でした)結果は、平均40名の参加者を得て、また10数名の皆勤賞の人もおり、地域の減災に大きな成果があったと思われる。

#### 【参加者の感想】

☆津波の高さを実物模型で目の当たりにしたときは、その危険性と恐怖感を想像した。

☆映像や実験道具などを使った講座で、あっという間にセミナーが終わったという感じでした。

☆3mから5mの津波と聞いてもピンとこなかったが、今回のセミナーで大変恐ろしく感じた。実際に地震が起きた時、自分たちはどうすればいいのか・・・これからの講座で勉強したいと思った。

☆子どもの参加がたくさんあり、わかりやすい話でとても楽しく学べた。まだまだ、来ない・・・という気があったが、時間のある我々、高齢者が学習していざという時に教えられるといいと思った。

☆クロスロードゲームでいろいろな立場に立って考えてみたが決断するのは非常に難しいと思いました。また救援物資が届くのは被害の大きいであろう高知県・徳島県が優先されるであろう。香川は・・・というのはとても役立つ情報でした。

☆東日本大震災の初めて見る(テレビとは違った)映像を見て、最大クラスの南海トラフ地震が発生した場合の揺れや津波の怖さを改めて感じた。東日本大震災では多くの死者があり身内の方は後悔・・・悔いであったと思う。いつか発生するであろう巨大地震！後悔しない決断と行動ができるようにもっと学んでいきたいと思った。

☆講師が1回目と同じ方々で安心して受講できた。ただ講演を聞く、DVDを見るというセミナーでなく、もし津波が来たらこうなる・・・という緊迫感があり、とても勉強になった。これなら次回も期待したい！

☆日常生活でも役に立つ止血と絆創膏の貼り方はとても参考になった。絆創膏の貼り方は香西で流行する気がした。

☆本当に避難所を使うようなことになれば怖いと思った。次回が楽しみです

☆日常生活での事故時にも対応できる事例があり参考になった。

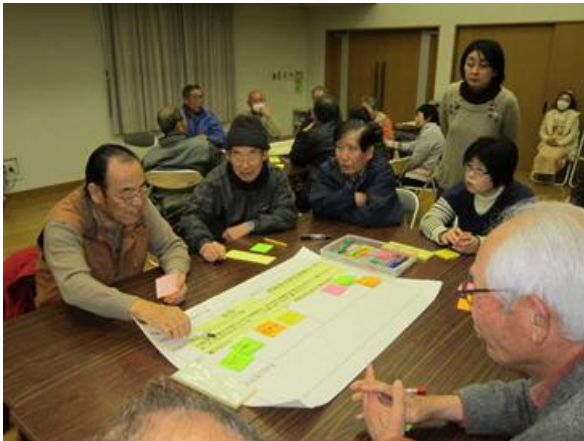
☆東日本大震災での災害救助活動の様子を映像で見て、現場の過酷な状況を学ぶことができました。自分自身、何ができるだろうと考えながら参加していました。まずは一人ひとりが自分の身を守ることが大切で、そして周囲の人を助けていけたらいいと思いました。

☆実技も学ぶことができ、もっと知りたい！という思いが出ています。次回も楽しみです。

☆逃げることの大切さがわかった。セミナー終了後も各地区で開催するという意見が出たが賛成。身近な地区ならより参加しやすく興味がわくと思う。2時間があっという間でたくさんの人に聞いてほしいと思う内容だった。

☆正常化の偏見で「安易に自分は大丈夫」だと思ふ気持ちが油断を生み、生命を失ってしまうかもしれない。自分に都合よく、楽観視しがちだが自分の命、家族の命を守るためにどうすればいいか。次回が楽しみだ。

☆香川は大丈夫。自分は大丈夫。という偏見をやめないといけないと思った。災害の少ない県だからこそ、いざという時に右往左往しパニックになる人が多いだろう。しっかり学んでおきたいと思った。



**<高松海上保安部視察> 【高橋 真里】**

去る2月24日に、高松海上保安部の業務視察を行いました。この企画は、浅海防災士が仲介してくれたもので、人数の制約もあり女性会員限定での開催とし、【香川県防災士会女性部会】の設立行事も兼ねて実施しました。

当日は、天候にも恵まれ9名の参加がありました。まずは、日程説明の後高松海上保安部長の鈴木様のお話を伺いました。その後、巡視艇ことなみに乗船し、基地棧橋～サンポート～女木島～男木島～備讃瀬戸東航路～豊島～直島～帰着と海上視察。随時、艇内の説明や航路の説明を受けながら、普段のフェリーや高速艇では味わう事のできない瀬戸内海を堪能しました。帰着後は、庁舎に移動して海上保安庁の業務説明を受けました。海難救助や、領

海問題等、ニュースで聞いて知ってはいるもののなかなか厳しい現実の中で、日々私たちの生活を守ってくれていることを痛感しました。

視察後は、懇親会も開催していただき「海猿」に興味津々の女性部会でした。

今後は、先方との都合を調整しながら会員皆さんに体験していただける様にしたいと思います。

また、女性部会発足に伴いまして愛称を募集し決定しましたので発表いたします。

【Lady かがわ】：強く・優しく・美しく♪をモットーに頑張っていきたいと思います。



## 今後の行事予定

- 4/29 平成 26 年度総会（香川県社会福祉総合センター 7 階大会議室）  
14：00～15：00 「防災気象情報について」久保 雅和  
「災害対策基本法の改正について」林 宏年  
15：10～16：45 総会  
17：30～ 懇親会（桜坂 高松南新町店）
- 6/1 香川県総合防災訓練（参加予定）  
未定 スキルアップ研修